

鈴木 章子さん

『癌告知のあとで』 探求社

婦長さんから「鈴木さん、あなたは高校の息子さんが卒業なさるまでの三年、生きていたいということでした。ね。あなたは、子供さんに何をしたいと思っ...」

が負けであるなら、生きとし生けるものすべて敗者であらうかと思えます。

私は肺一葉切りとることに より、元気な頃よりも自分の体を自覚し、「手もあつた！ 足もあつた！ あれもこれもあつた！ あつた！」

たしかに 受容できました

大きな御手 私がする... 私がしなれば... 私がしてあげる... と思つて生きてきたのが

気づかれます 鈴木章子(あやこ) 昭和16年生まれ 北海道 真宗大谷派・西念寺坊守 斜里大谷幼稚園の園長、昭和63年 往生 行年47歳

表(1面)より続く ですから、物理的とか、地理的に浄土があるわけではなくて、自分の生き方の迷いを照らし出すと

親鸞聖人 本願力に あひぬれば むなしくすぐるひとぞなき

ホームページは「お墓のさんわ」で検索してください。 日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口) TEL(0977)72-6415 三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トリアル横) TEL(0974)22-3301 森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口) TEL(097)524-6525

さんわ便り

第170号 発行所 さんわグループ 編集 広報部 大分市森町

自我の殻のなかから 外を見る

私は学生のときに、福岡 教育大学の細川巖先生のお話に出遇つて浄土真宗のご縁ができました。

負け組のほうには入りたくない。

いつも善悪・損得・勝ち負けを考えながら生きています。

ヒヨコになることを禅宗では「悟り」といい、浄土教では「信心をいただく」という。

やがて 時期が 熟して ヒヨコになる。

年間の歩みは、善悪損得・勝ち負けに振り回されっぱなしで、そのとおりだったなと思ひました。

同時に、それは小さな殻のなかだったのであり、それを越える大きな世界があると初めて聞きました。

ものを見るということに、もう少しお話ししたいと思ひます。

四(裏)につづきます